

タイ・シンガポールへの経済ミッション団の派遣

平成 30 年 12 月
三重県雇用経済部

平成 30 年 11 月、三重県は、本県の国際展開戦略である「みえ国際展開に関する基本方針」において重点地域と位置付けるタイ及びシンガポールへ、鈴木英敬知事をはじめとする経済ミッション団を派遣しました。

タイでは、これまで構築したネットワークを活用し、連携関係を強化し三重県の認知度向上を図るとともに、観光誘客促進や食の販路開拓に係るトップセールスを行いました。

シンガポールでは、三重県産活カキの輸出に向けたプロモーションを行いました。

(1) 三重タイイノベーションセンター開所式

本年7月のソムキット副首相来県時に提案のあった、タイと三重県の産業連携の拠点となる三重タイイノベーションセンター開所式に出席しました。

鈴木知事からは「多くの参加を得てオープニングセレモニーが開催され、大変喜ばしい。センターの設置については、本年7月にソムキット副首相から提案を受けて協議が始まったが、たった4カ月で本日のオープニングを迎えられたのは、ソムキット副首相のリーダーシップのおかげである。三重県は日本有数のものづくり県だが、その中でも食品加工分野やエレクトロニクス分野は三重県の経済を牽引している分野である。センターが両者にとって重要なプラットフォームになることを期待している。」といった挨拶を行いました。

来賓挨拶として、佐渡島志郎駐タイ日本国大使より「日本とタイとの関係は昨年修好 130 周年を迎え、深みを増している。今回のケースもソムキット副首相と鈴木知事のトップ同士の交流の成果である。日本の食品関連産業は、タイでは有望な分野であると認識されており、多くの日本企業の成功例があることから、タイと日本が連携できる分野として可能性が高い。政府レベルでも日本の高専のシステムをタイに紹介していくなど、人材育成に取り組んでいきたい。」と述べられました。

最後にソムキット副首相からは「今日は鈴木知事にお礼を申し上げるために出席した。若い知事がリーダーシップを発揮して物事をスピーディに進めていただいている。今年7月に三重県を訪問し、ポテンシャルの高さを感じた。食品加工のノウハウが十分にないタイで、このセンターが重要な役割を果たしていくことを期待している。」と挨拶がありました。



開所式で挨拶する鈴木知事



三重タイイノベーションセンター前でのテープカット
(左から、佐渡島大使、鈴木知事、ソムキット副首相)

(2) タイ農業・協同組合大臣訪問

平成 22 年の輸出開始から 8 年が経過し、三重県産柑橘のタイへの輸出が定着しつつある中、さらなる輸出拡大に向け、タイのクリッサダー農業・協同組合大臣と検疫条件の緩和について意見交換を行いました。

鈴木知事からは「輸出検疫時に義務付けられているタイ王国検疫官との合同検査について、条件緩和していただけるようお願いしたい。カンキツそうか病(SOS)対策や輸出開始時期の前倒し(毎年の輸出開始時期を 10 月に前倒し)にむけたエビデンスの準備について、現在、国とともに取り組んでいることから、今後も二国間協議を進めてほしい。」と要請しました。これに対し、クリッサダー大臣からは「合同検査の緩和については、前向きに検討を進めている。」「カンキツそうか病対策や輸出開始時期の前倒しについては、エビデンスを示していただいたうえで、協議を進めたい。」「駐日タイ王国大使館にも農業省の関係部署があるので、エビデンスの整理など相談いただきたい。」との発言がありました。

これを受けて鈴木知事は「前向きに検討を進めていただいております。本日の内容を農林水産省に伝えるとともに、駐日タイ王国大使館にもご協力いただきたい。」と発言しました。



左から鈴木知事、クリッサダー大臣

(3) 三重南紀みかん販売店(モールグループ)へのトップセールス

バンコクを中心に 10 数箇所百貨店を運営するモールグループを訪問し、三重南紀みかんの販売拡大に向けたトップセールスを行いました。

鈴木知事からは「三重県は、タイへ日本のみかんを最も多く輸出している産地であり、輸出検疫条件の緩和措置が実現できれば出荷回数を増やす等、さらに効率的に輸出が可能となる。今後ともぜひ、三重県産みかんの取り扱いを拡大していただきたい。」と述べました。

モールグループ調達統括責任者のブーンチャイ氏からは「現在、取り扱っている日本のみかんは、三重県産だけなので、取り扱いを増やしていきたい。また、三重県にはみかんのほかにも特徴的な産物があるので、それらを揃えて三重県フェアを開催してもよいのではないか。」と発言がありました。鈴木知事からは、「三重県産のみかんの取り扱いを増やしていただけることはありがたい。三重県フェアについても検討していきたい。」と述べました。

その後、モールグループが経営する大型商業施設サイアムパラゴン内のグルメマーケットコーナーにおいて、来客にみかんの試食を促すなど、三重南紀みかんの PR も行いました。



売場での三重南紀みかんの試食 PR を行う鈴木知事
(右から 2 番目)

(4) 中部地域観光セミナー・商談会

東南アジアで最も訪日旅行者数が多く、三重県への宿泊者数が前年比約3倍(対前年同期比)と大きく伸長しているタイ市場において、中部国際空港利用促進協議会が主催する中部地域観光セミナー・商談会の機会を活用して、現地旅行会社等に対する三重県PRを実施しました。

昨今、タイでは訪日旅行のリピーター増加に伴い、大都市以外の地方への訪問意欲も高まりつつあります。また、中部国際空港のバンコク便においては、タイ航空が本年7月からダブルデイリー化、タイ・エアアジアX(LCC)が平成30年10月30日から新規就航し、タイライオン(LCC)も平成31年1月26日からの新規就航を発表するなど座席供給量が大幅に拡大しています。

この好機を活かすため、鈴木知事より中部地域を代表して、「忍者」、「海女」といった当該地域ならではの観光資源や、食等の魅力を紹介し、旅行商品造成に向けたPRを行いました。

また、「忍者」は、タイ人にとっても非常に人気があることから、鈴木知事のプレゼンテーション前には伊賀流忍者特殊軍団 阿修羅による忍者ショーが会場で披露され、忍者発祥の地としてのPRも行われました。

商談会では、観光事業者17団体(うち三重県関係観光事業者8社)と現地旅行会社等43社が直接商談を行い、ビジネス関係の構築強化を図るとともに県内への旅行商品の造成等を働きかけました。



伊賀流忍者特殊軍団 阿修羅による忍者ショーの様子



プレゼンテーションを行う鈴木知事

(5) 三重県産カキのプロモーション

日本から初めてとなる活カキ輸出の解禁に先立ち、三重県産カキのおいしさを知ってもらうため、銀座ライオン・シンガポール店(ビヤホール)で県内3産地の焼きカキ食べ比べフェア(11月16日(金)から18日(日)の3日間)が開催される記念として、鈴木知事と銀座ライオン松原総料理長との対談や、焼きカキの試食を行うプロモーションイベントを、現地メディア等を招待して行いました。

松原総料理長との対談の中で鈴木知事は、「三重県のカキは、渋みが少なく、甘みが強い」、「日本政府が認める規格基準を上回る厳しい基準を義務化し、衛生管理を図っている」など、品質では日本のどこの産地のカキにも勝ることを説明するとともに、「県内3地区のカキを食べ比べていただき、三重県産のカキの良さを知ってもらいたい。」と発言しました。

松原総料理長からは、「小さいころからの的矢かきを食べていた。カキ小屋が海外の人にも人気なのは嬉しい。三重県出身者として、今後もシンガポールの方に向けた、カキをはじめとした三重県産品のアピールに協力していく。」とのお言葉をいただきました。

グローバル通信第119号



対談を行う鈴木知事(左)と松原総料理長(右)

(6) シンガポール農食品・獣医庁(AVA)副長官訪問

食品輸入規制を統括するシンガポール農食品・獣医庁を訪問し、活カキ輸出に必要な三重県の衛生管理プログラムが承認されたことを伝えられました。鈴木知事は、「日本で初めて三重県から輸出できることになり、大変感謝している。今後は、衛生証明書が発行されれば実際の輸出が可能になることが確認できたので、その様式等について引き続き政府間協議をお願いしたい。」と述べました。

これに対し、ヤップ副長官からは「三重県では、カキについてきちんとした安全システムが確立されていることが確認できた。証明書等については、原案ができていますので、今後両国で早期に協議を進めていく。」との発言がありました。



意見交換を行う鈴木知事とヤップ副長官
(左端から2番目が鈴木知事、右端がヤップ副長官)